

半導体漫遊記

188

湯之上隆

中国当局は、米マイクロン・テクノロジ、韓国サムスン電子、同じ韓国のSK Hynixが、半導体メモリDRAMにおける市場シェアの支配的地位を乱用し、不当に価格を釣り上げているとして、独占禁止法違反の調査を開始した(日経新聞6月5日)。

もし、談合があったことが証明された場合、韓国2社だけで、最大8兆ウォン(約8247億円)の課徴金が賦課されるという(電子デバイス新聞6月21日)。しかし、筆者は、DRAMメーカー3社の談合を立証するのは困難と考えている。その根拠を示したい。

DRAMの生産量が給がちよっと足りない状態になるように、生産調整していたと思うからだ。

DRAMは歴史的に、価格の高騰と暴落を3~4年おきに繰り返してきた。これをシリコンサイクルと呼ぶ。日本が強かった頃、例えば、1Mビットの最先端DRAMが

た企業が現れ、再びDRAM価格が高騰し、やがて10社が雪崩を打って4Mを量産する。また、価格が暴落する。これを延々と繰り返してきたわけだ。

現在、シリコンサイクルを生き延びた3社がDRAM市場を独占している。この3社の証拠はどこを探しても見つからないと思う。(微細加工研究所・所長)

米韓3社に談合容疑

DRAMメーカー1 中国が調査、立証困難か

そのエルピーダも、2012年に倒産して、マイクロンを買収された。また、台湾のDRAMメーカーも、リーマン・ショック以降、総崩れしてしまい、現在は数%のシェアにとどまっている。

その結果、2012年以降、DRAMは、サムスン電子、SK Hynix、マイクロンが50%を記録した。

あり、ほとんど増えない。ところが、この間に3社合計の売上高は、約79億ドルから220億ドルに増大した。そして、2017年第三四半期に、各社のDRAMの営業利益率は、サムスン電子が62%、SK Hynixが56%、マイクロンが50%を記録した。

これらの事実を並べると、3社が談合していたように見えるかもしれない。しかし、談合を立証するのは困難である。というのは、3社は、密談などをせずに、お互いが阿吶の呼吸で、「需要より供給がちょっと足りない状態」になるように、生産調整していたと思うからだ。

DRAMは歴史的に、価格の高騰と暴落を3~4年おきに繰り返してきた。これをシリコンサイクルと呼ぶ。日本が強かった頃、例えば、1Mビットの最先端DRAMが

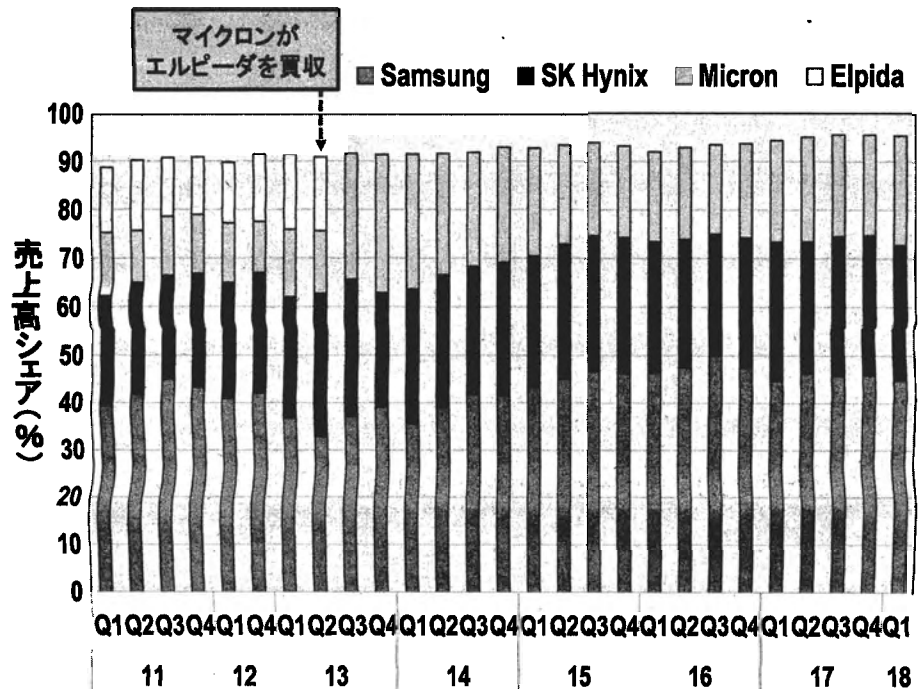


図1 企業別DRAMの売上高シェア(3社合計で95%超)

出所: statistaのデータを基に筆者作成